

令和4年度 三次市立三和中学校 学校評価自己評価表

◆ 経営理念 ◆

【教育目標】 「志高く、未来を拓く」

【ミッション】 生徒に、夢や志に挑戦する勇気と自信を与え、「グローバル社会で活躍する人材を育成する」学校

【ビジョン】 (1) 主体的に学ぶ力を育み、確かな学力を育成する。

(2) 規範意識や礼儀など豊かな心を育む。

(3) グローバルマインドを養い、夢や志の実現に向けて粘り強く挑戦する逞しい気力と体力を育成する。

(4) 小中一貫教育の充実を図り、9年間を見通した教育活動を展開する。

(5) 保護者・地域から信頼される開かれた学校づくりを推進する。

◆ 経営目標・評価項目・評価・達成状況 ◆

中期�営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標	目標値	中間		最終	
					達成率	達成度評価	達成率	達成度評価
確かな学力の育成	基礎・基本の学力定着と家庭学習の習慣化を図る。 主体的に学ぶ力を育み、確かな学力を育成する。	○「教えて考えさせる授業」 ・予習を活かした授業作り ・理解確認・理解深化の充実 ○「学びのスタンダード」「学びのすすめ」を基にした学習に臨む意識向上 ○ICTの活用(タブレットを使用した学習・ドリル学習)	○各種学力調査において、全国平均を上回った教科数の割合(%)	50	3年 全国学力 (1/3) 50 33%(1/3)	66.6 2 38.5%	3年 全国学力 (1/3) 1, 2年 標準学力 調査 (4/10) 77.0 3	
		○自習・読書の充実 主体的に学び、行動する生徒を育成する。	○「ほぼ毎日、家庭学習を2時間以上している」と肯定的に回答した生徒の割合(%) ○「主体的な学び」に関するアンケートの肯定的 回答の割合(%)	80	1年(7/10) 2年(3/11) 3年(5/8) 15/29 51.7% 70.3%	64.7 2 87.9 3	1年(5/10) 2年(5/12) 3年(5/8) 15/30 50.0% 72.3%	62.5 2 90.4 3
豊かな心の育成	自己肯定感、自己有用感や他者理解を高める。 規範意識や礼儀など豊かな心の育成	○スマイルキャンペーンの実施と充実 (スマイル運動、スマイル集会) ○「いいね」カードの取り組みの継続	○生徒アンケート 「自分には良いところがある」と肯定的に回答した割合(%)	85	1年(7/10) 2年(9/11) 3年(7/8) 23/29 79.3%	93.3 3	1年(7/10) 2年(10/12) 3年(7/8) 24/30 80.0%	94.1 3

結果概要と分析	今後の改善方策(取組)	担当	学校関係者評価(コメント)
○全国学力・学習状況調査(3年生対象)の結果は、国語70(全国69.0)、数学41(全国51.4)、理科49(全国49.3)であった。国語、理科ではほぼ全国平均並みであったが、数学では全国平均から-10.4ポイントで、広島県の平均(50)と比較しても低い正答率となっている。学習分野では「数と式」が-23.1ポイント、「関数」が-20.3ポイントという結果となった。 ○三次市学力調査(1・2年生対象)では1年生は英語以外の4教科で全国、広島県と比べて高い正答率となった。英語については全国平均-5.2ポイントとなつた。2年生では5教科全てにおいて全国・広島県と比べて低い正答率となつた。2年生の全体的な基礎的・基本的な学力の定着について取り組みが必要である。	○数学では、文字式・関数の意味や使い方について、様々な場面で繰り返し扱い、文字式や関数のグラフなどを使うことの有用性を感じられる授業展開を行う。また、ドリル学習により、既習内容の定着を図る。 ○他教科においても、単元学習後に基礎的・基本的な語句の確認テストや、復習プリント、デジタルドリル学習を行うなどして学力の定着を図り、学力調査における全国平均を上回るよう取組む。 ○2年生については全体的な学力の定着が必要であり、基礎的な課題を確実に解ける力をつける必要がある。各教科における授業進行の仕方の工夫、復習課題の充実、内容定着の細かな確認などを重視し、スマールステップで進める授業展開を意識して、学力定着を図る。	A	○英語は必要科目で、もっと解り合える授業を進める必要がある。2年生は家庭学習等で復習に取り組み学力の定着を図る必要がある。 ○授業内容、方法の工夫・改善、教科間の壁を超えたコミュニケーションが必要と思う。 ○家庭学習の時間が取れていないので、家庭との連携も含めて取組むべき課題と考える。 ○個人差があると思うが、基礎的な内容理解が不十分な生徒には、引き続き、継続した支援体制の充実や一人一人に合わせた勉強の進め方などに取り組んで欲しい。
○「ほぼ毎日、家庭学習を2時間以上している」生徒の割合は全体として50.0%であった。1年生では前回よりも割合が下回り、2年生では前回よりも上回ったが半数以下という結果であり、家庭学習が定着していない。 ○「主体的な学び」に関するアンケートでは、72.3%が肯定的な回答であり、全体的には良好である。「課題設定」は-4.3%、「整理分析」は-4.7%、「振り返り」は-4.2%という結果であった。	○家庭学習の取り組みについて、生徒への説明と各担任からの声かけを引き続き行い、家庭学習への意識を高めると同時に、復習プリント、デジタルドリル等を活用して家庭学習の定着を図る。 ○各教科及び領域において、基礎的基本的な知識や技能の定着とともに、生徒が主体的に課題を設定し、情報を整理・分析していく発展的な取組や学習のまとめとしての振り返りを行うよう、教員の意識を高めていく。		○家庭学習を中心とした学ぶ態度の向上が期待される。興味・関心が学習意欲につながる。 ○家庭学習の習慣化、効率的に身に付く良い学習の仕方、意欲的な取組等もっと保護者に協力を呼びかけして欲しい。 ○この地域には、学校以外に学習塾等の環境がないため、家庭学習時間の確保も伸びていないのだと思う。コミュニケーションスクール等の計画の中で、地域ボランティア等による学習支援が出来たら良い。
○「自分には良いところがある」の設問に対する肯定的に回答した生徒の割合は、全体で80%であった。学年別で見ると、第1学年が70%、第2学年が83%、第3学年が88%と、学年が上がるにつれて肯定的評価も上がる結果となつた。	○現在取り組んでいるスマイルキャンペーンや各クラスで行う「いいねカード」の取組を継続する。併せて、日々の取組として、意図的に班活動を仕組むことや授業での交流などで他者との関わりを増やす。また、生徒会活動を生徒がより主体的に行うことができるよう意図的に仕組むことで、自分の長所に気付かせたり考えさせたりして、自己肯定感や自己有用感を向上させる。	A	○道徳性の意識向上も図る。 ○様々な体験の場と機会を設し、教育の効果を上げるために、教授目標に照らして、児童生徒の学習が成立しているかどうかを常に確認しながら学習指導を行うことが大切である。 ○自己肯定感は、自分が自信を持つことにつながるので、目標値をもう少し高く設定してほしい。 ○学年が上がるにつれて肯定的評価が上がっており、取組みの成果が表れていると思う。引き続き、生徒一人ひとりが主体的に活動できる場面を多く設定し、自己肯定感等を高める指導を行ってほしい。

礼節と規範意識を醸成する。	○生徒会が中心となり目標を決め、行動し、振り返りをおこなう。 ○お互い気持ち良く明るいあいさつをおこなうよう指導し、振り返りをおこなう。 ○「学校での5つの約束」の充実と徹底	○生徒アンケート 「あいさつ」に関するアンケートで肯定的に回答した割合(%)	90	1年(9/10) 2年(8/11) 3年(6/8) 23/29 79.3%	88.1 3	1年(5/10) 2年(8/12) 3年(6/8) 19/30 63.3%	70.3 2	○「大きな声であいさつをし、4秒の礼をいねいにしている。」の設問に対する肯定的に回答した生徒の割合は、全体で63%であった。学年別で見ると、第1学年が50%、第2学年が67%、第3学年が75%と、特に第1学年の割合が低い結果となつ。 ○授業開始・終了のあいさつや学級委員会を中心としたあいさつ運動に取組み、日常的にあいさつをする場面を増やすことで、あいさつを習慣化させる。 ○教職員が生徒と廊下などで出会った際に、自ら大きな声であいさつをすることで、積極的に自分からあいさつすることを意識させる。	A	○挨拶の習慣化は大切なことですが、長い間には相手の顔を見ることなく惰性になることがある。先生が生徒の顔を見て挨拶することを心掛けほしい。 ○挨拶は社会生活の基本であり、多くの生徒はこちらから挨拶をすれば必ず返してくれる。あいさつ運動等を通して、自ら進んであいさつができるよう意識付けをしてほしい。
逞しい気力と体力の育成	基礎体力・運動能力の向上を図る。	○委員会等と連携し、全校で体力を高める活動をおこなう。 ○部活動や体育の授業、自主的なトレーニングの中で体力を高める運動をおこなう。	50	1年(9/16) 2年(12/16) 3年(3/16) 24/48 50%	100 4	1年(9/16) 2年(13/16) 3年(3/16) 25/48 52.1%	102 4	○8種目で測定を行い、1年男子で全国平均を上回った種目は7種目、2年男子で8種目、3年男子で1種目であった。1年女子で平均を上回った種目は2種目、2年女子は5種目、3年女子は2種目であった。(令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果、2年生女子の反復横跳びで全国平均を上回った。)	A	○フィジカル面よりもメンタル面の強化が大切である。 ○体力づくりを重点目標に工夫された取組が必要だと思う。
	基本的生活習慣を身に付ける。	○メディアコントロールチャレンジで一人ひとり目標を決め、その目標を達成に向けて取り組む。		60	1年(8/10) 2年(10/11) 3年(5/8) 23/29 79.3%	132 4	1年(8/10) 2年(9/12) 3年(5/8) 22/30 73.3%	122 4		
信頼される学校づくり	計画的に情報の発信・受信・共有をし、学校運営に活かす。	○学校間(小中、中高)、地域との連携を計画的に図る。 ○計画的、積極的な情報発信(学校便り、学級便り等) ○HPの適時な更新と内容充実	90	学校間 19/25 地域連携 20/25 情報発信 22/25 61/75 81.3%	90.4 3	学校間 19/27 地域連携 21/27 情報発信 22/27 62/81 76.5%	85.0 3	○学校間アンケート「小学校と中学校は、協力して教育活動を進めていると思う。」の肯定的評価の割合は70%、地域連携アンケート「(お子さんは)地域や地域の人を大切にしていると思う。」の肯定的評価の割合は78%、情報発信アンケート「学校は、お子さんの状況(学習や生活の様子)や学校の取組を適切に伝えていると思う。」の肯定的評価の割合は82%で、平均すると76.5%であった。	A	○子ども・保護者からの情報の受信をいねい!計画・進捗状況・結果の分かりやすい報告が保護者の協力と信頼が得られる。 ○この春から制限が緩和されることもあり、小中合同での行事などが増えることを期待する。先生方も小中で授業研究していただき、9年間の見通しが持てる環境を作っていたい。 ○学校の様子を理解してもらうため情報発信を強化し、学校や生徒の「課題」「取組み内容」「成果」等をしっかりとアピールしてほしい。
	学校と保護者や地域が協働した特色ある学校づくり	○優先順位や時間対効果を常に考えた教育活動の実践、校務の効率化 ○児童生徒と向き合う時間の確保 ○授業を磨き、人間性や創造性を高める時間の確保 ○入校・退校時刻記録を活用した勤務状況実態の把握と定時退校の徹底		○教職員アンケート 働き方改革の状況及び効果の肯定的回答の割合(%)	85	95/115 82.6%	97.2 3	67/88 76.1%	89.6 3	
働き方改革・業務改善を推進する。	○優先順位や時間対効果を常に考えた教育活動の実践、校務の効率化 ○児童生徒と向き合う時間の確保 ○授業を磨き、人間性や創造性を高める時間の確保 ○入校・退校時刻記録を活用した勤務状況実態の把握と定時退校の徹底	○教職員アンケート 働き方改革の状況及び効果の肯定的回答の割合(%)	85	95/115 82.6%	97.2 3	67/88 76.1%	89.6 3	○業務改善に関するアンケート10項目の、肯定的回答の割合は76.1%であった。全員が「優先順位を意識して業務を行っている。」「毎日、目標退校時刻を意識して業務を行っている。」と答え、「子どもと向き合う時間が確保されていると思う。」は9人中6人であった。 ○働き方改革を推進していく上で必要があると感じるものに、共有フォルダの整理、データの共有化や研修・会議等の設定時刻の時間厳守、学校行事や参加する大会の見直し、PTA活動の見直しが挙がった。	A	○教育にゆとりを持てる職場環境こそが大事だと思う。 ○家庭や地域等も含めたすべての学校関係者と、めざすべき理念を共有しながら、働き方改革に取り組んでほしい。 ○学級通信(学校での様子、行事など)を発行して欲しいと聞いた。